

1. 日 時 令和5年7月11日(火) 17:00~18:00

2. 開催場所 本山製作所青葉アリーナ (青葉体育館) 1階会議室

3. 出席委員名(敬称略)

役職	氏名	出欠
会 長 (東北福祉大学 特任教授)	鈴木 玲子	○
副会長 (東北学院大学 准教授)	岡崎 勘造	○
委 員 (アイスリンク仙台 専属インストラクター)	阿部 奈々美	○
委 員 (仙台市小学校教育研究会体育研究部会 常任委員)	岡本 美佳	○
委 員 (仙台市学区民体育振興会連合会 理事)	尾地 浩	○
委 員 (仙台市スポーツ協会 副理事長)	草刈 恵佐雄	○
委 員 (仙台市障害者スポーツ協会 理事長)	熊谷 勇一	○
委 員 (仙台市レクリエーション協会 会長)	小池 和幸	○
委 員 (仙台市スポーツ推進委員協議会 常任理事)	佐藤 園子	○
委 員 (東北学院大学 教授)	篠崎 剛	×
委 員 (仙台市議会議員)	高橋 卓誠	○
委 員 (仙台市中学校体育連盟 会長)	洞口 乃	○
委 員 (仙台大学 准教授)	弓田 恵里香	○
委 員 (仙台市スポーツ少年団 本部長)	吉田 尚	○

4. 説明に出席した者の職・氏名

文化観光局長	金子 雅
文化スポーツ部長	工藤 仁司
スポーツ振興課長	齊藤 淳志
スポーツ振興課 企画係長	土屋 直樹
スポーツ振興課 総括主任	工藤 薫
スポーツ振興課 主任	大波 智仁

5. 会議の経過

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

(3) 報告事項及び議事の内容

進行役：鈴木会長

議事録署名人の指名：佐藤委員

鈴木会長

次第に基づきまして、進めてまいりたいと思います。

まず、本日の会議事録へ署名いただく委員につきまして、指名させていただきたいと思いますが、今回は佐藤委員にお願いしたいと思います。佐藤委員よろしいでしょうか。

佐藤委員

わかりました。

鈴木会長

それでは、佐藤委員に議事録への署名をお願いしたいと思います。

これより報告事項に入りたいと思います。

報告事項 1 令和 4 年度主要事業等について、報告事項 2 スポーツ関係団体への補助金の交付について、事務局より説明をお願いします。

事務局

報告事項 1 と報告事項 2 を続けてご報告させていただきます。報告資料 1 をご覧ください。

令和 4 年度の主要事業といたしまして、仙台市の主催事業と他団体との共催事業のうち、主な事業をご報告させていただきます。A の国際・全国スポーツイベントの一つ目、仙台国際ハーフマラソン大会については、令和 4 年 5 月 8 日に、コロナ感染対策を実施いたしますとともに、従来ですと、ハーフマラソン大会は大体 1 万数千人規模で行ってございましたけれども、参加者数を絞りまして、開催したところでございます。第 40 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会、通称杜の都駅伝、第 42 回全日本実業団対抗女子駅伝につきましても、従来同様に、それぞれ 10 月、11 月の期日で開催したところでございます。どちらも沿道応援について、応援を自粛いただくなど、感染対策の万全を期しながら、予定通り開催したところでございます。

次に 2 ページ目をご覧ください。B 市民参加型イベントでございます。

仙台泉ヶ岳トレイルラン 2022 は市民参加型のアウトドアスポーツイベントといたしまして、泉ヶ岳を会場に開催しているものでございますけれども、コロナ感染対策を先の大会同様に実施しながら、予定通り開催することができました。また、毎年、スポーツの日に実施しております、マイタウンスポーツデーも感染対策を講じながら、各マイタウンスポーツ協議会にて各種企画を講じていただき、地域の方々に気軽にスポーツに親しんで

いただくイベントとしまして、昨年度も無事開催することができたところでございます。

C 地域スポーツ大会は、仙台市学区民家庭バレーボール大会など、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる大会や規模縮小しての開催もございましたけれども、令和 3 年度に比べますと、開催できる大会が増えまして、地域でコミュニケーションを図りながら実施することができました。

次に 4 ページをご覧ください。D その他でございます。スポーツコミッションせんだいという行政機関は、地域のスポーツ団体、民間企業等が参画している枠組みでございますが、スポーツコミッションせんだいを通じまして、各種国際大会や全国規模の大会等を誘致いたしました。16 歳以下のサッカー代表チームを招いて、ユアテックスタジアムで開催いたしました、U-16 インターナショナルドリームカップ 2022JAPAN 大会などを通じて、交流人口の拡大や地域のにぎわい促進、そういった取り組みをしたところでございます。

引き続き、報告資料 2 をご覧ください。スポーツ関係団体への補助金交付につきましてご報告させていただきます。

仙台市のスポーツ関連団体である、仙台市学区民体育振興会連合会、仙台市レクリエーション協会、仙台市スポーツ協会、仙台市中学校体育連盟、仙台市スポーツ推進委員協議会への交付状況をまとめてございます。過年度、新型コロナウイルス感染症の影響があり、令和 2 年、令和 3 年度は、各団体とも様々な大会を実施できずに、交付額が少なかったのですが、令和 4 年度は、様々な感染対策などを講じながら、それぞれの団体におきまして、活動を再開したというところもあり、コロナ禍前の金額に近い確定額になっているところでございます。今年度の交付額につきましては、概ね令和 4 年度と同程度の金額になっており、徐々にコロナ禍前の状況まで回復してきているというようところが、この実績からも読み取れるところでございます。以上で報告を終わります。

鈴木会長

事務局よりご説明いただきましたが、何かご意見等がございましたらお願いいたします。

鈴木会長

特にございませんようでしたらお認めいただいたということで次に進めていきたいと思いますがいかがでしょうか。

全委員

異議なし。

鈴木会長

報告事項 3 仙台市スポーツ推進計画 2022-2031 に基づく取り組みについて、事務局より説明をお願いいたします。

お手元の報告資料 3 をご覧ください。本計画の概要についてご説明させていただきます。昨年の 4 月より運用しております新たな仙台市スポーツ推進計画は国のスポーツ基本法第 10 条の地方スポーツ推進計画に位置づけるものとしたしまして、仙台市基本計画の他、関連計画を踏まえ、本市スポーツ施策についての総合的な推進を図るための基本的な計画として、令和 4 年に策定したところでございます。この計画の期間は、令和 4 年度から 13 年度までの十年間を見通したのものとして策定しておりますけれども、具体的な取り組みや、計画に定める数値目標は、中間年である令和 8 年度までの 5 年間としてございます。計画に基づく取り組みの実施状況につきましては、本審議会に報告いたすこととしておりますことから、計画の初年度となります、令和 4 年度の取り組み状況につきまして、概略をご報告させていただきます。

令和 4 年度の主な実績について計画に定める三つの基本方針ごとにご報告させていただきます。まず一つ目、アクティブライフスタイルの推進でございます。いいね！スポーツせんだいアクティブライフスタイル推進事業といたしまして、新たに実行委員会を設立し、継続的に体を動かしていくための各種事業を実施いたしました。こちらの取り組みにつきましては、国が定める事業に申請をして採択をいただき、国の補助金を活用して取り組んだところがございます。具体的には、アクティブライフスタイルを効果的に発信するため、市政だよりをはじめ、テレビ番組、SNS などの媒体を活用するとともに、イベントを開催し、広く啓発をしたところがございます。アクティブライフスタイルという考え方自体は、日常生活の中で、少しでも積極的に体を動かしていく考え方をさしているものでございます。新たな計画を策定する時のアンケート調査でも、比較的運動する機会が少ない年代、勤労世代の女性の方が特に実施率が低いという結果もございましたので、そういった層を対象にウォーキングやランニングの講座を主とした教室を開催いたしますとともに、運動を続けていくための啓発動画や健康アプリを活用した講座なども実施したところがございます。また、本市の場合は、ベガルタ仙台、楽天イーグルス、仙台 89ERS、マイナビ仙台レディースのように、プロスポーツチームが集積しているということもございますので、プロスポーツチームと連携したイベントとして、発見！はじめてスポーツチャレンジフェスタ 2022 を新たに開催いたしました。これは、子供たちのスポーツを始めるきっかけづくりを目的としたしまして、在仙プロスポーツチームや、地域で活躍されているスポーツ団体の方々にご協力いただきまして、小学校の低学年を対象に、様々なスポーツを体験できる教室として実施いたしました。当日は雨天でございましたけれども、多くの親子の方にご参加をいただき、イベントを通じて、スポーツの魅力や楽しさを伝えますとともに、自分に合ったスポーツを発見する機会の提供ができたところがございます。またご参加いただいた、保護者の方にアンケートいたしましたところ、自身が運動しようと思っても、忙しくてで

きないけれど、子供がイベントに参加したいから、一緒についてきて、一緒に参加することで、運動する良いきっかけになったというお声をいただいたところでございます。

二つ目の地域コミュニティ活性化につながるスポーツ機会の充実につきましては、市民参加型の多様なスポーツレクリエーション大会やイベントを開催いたしましたほか、各種地域スポーツ団体の活動支援を行ったところでございます。

三つ目のスポーツを核としたにぎわいの創出につきましては、様々な感染対策を講じながら、仙台国際ハーフマラソン大会 2022 チャレンジレースをはじめとした、各種大会を開催することができました。昨年度開催したイベントでは、まだコロナの影響が強かったので、オンライン参加として、リアルでの開催を見送った大会もありました。国際ハーフマラソンについては様々な感染対策を講じながら実施した結果、ご参加いただいた方からも、無事に走ることができて嬉しかったというお声や、ハーフマラソンのコースになっている定禅寺通りの並木通りの美しさが非常に感動したというお声を多数いただきました。そういう意味でそのランナーにとって大会を走れてよかったというだけではなくて、このイベントを通じて仙台の街の魅力を発信できたことや、マラソン大会に参加された方が今度季節を改めて観光で訪れるなどの交流促進に繋がる、そういったきっかけにもなるものと考えておりますので、引き続き大規模スポーツイベントの開催や誘致に取り組んで参りたいと考えております。令和 4 年度は、本計画における新たな取り組みといたしまして、スポーツの捉え方を幅広く考えていくことに力点を置きました、アクティブライフスタイル推進事業を、特に力を入れて展開したところでございまして、市民の方々にスポーツに親しむ機会を、様々な形で提供できたものと考えております。

次のページをご覧ください。3 計画の進捗状況について、でございます。計画全体の成果指標といたしましては、週 1 回以上スポーツを行う 15 歳以上の市民の割合を設定いたしまして、スポーツの捉え方を幅広く考えていく普及促進を中心に、各施策を実施していくことで、現計画の、目標である令和 8 年度に目標値としての 70%への到達を目指して参りたいと考えてございます。重点的な取り組みといたしましては、スポーツに親しむ意欲の喚起、子どものスポーツ推進、高齢者や障害者がスポーツに参画しやすい環境づくりの推進などを設定してございます。重点施策等の推進による個別の成果指標及び計画全体の成果指標につきましては、各年度の目標値というのは設けてございませんけれども、中間年、令和 8 年度の目標達成に向けまして、様々な施策を組み合わせ実施していくことが必要と考えてございます。本計画の初年度となります令和 4 年度は、新たな取り組みも含め、こういったきっかけを作っていくことについて、着実に進めることができたと考えてございます。今後さらに、スポーツを行う、スポーツに触れる市民を増やしていくためには、子供や若い世代のさらなる参加が

欠かせないものと考えております。令和 5 年度は、これまで実施して参りました事業を、継続して取り組むことはもちろんでございますけれども、親子で取り組むことができるイベントを昨年以上に充実させることで、より幅広い世代が運動に気軽に親しむアクティブライフスタイルの定着を図って参りたいと考えております。引き続き関係機関と連携を図りながら、さらなる情報発信を進めまして、すべての市民の皆様が各ライフステージに応じて、スポーツに親しむ機会を充実させていくことができますよう、取り組みを重ねて参りたいと思います。以上報告資料 3 に基づく報告を終わります。

鈴木会長

事務局より事業の説明をいただきましたが、ご質問ございませんでしょうか。

岡本委員

ポッチャが教科書に載っており、子供たちがすごくポッチャに興味を持っているようで、息子と、発見！はじめてスポーツチャレンジフェスタに参加しました。働く世代のお母さん方にとって、一緒に公園に行って 2 人でスポーツと思ってもなかなかやりにくいので、親子で参加できるこういう取り組みがあるのは本当に良いことだと思いました。リレーマラソンに参加させていただいた時に、フォトロゲイニングの案内がありました。ポイント、ポイントで写真を撮りながらウォーキングするもので、仙台の魅力のスポットで写真を撮りながら楽しんで歩くのがすごくいいなと思っております。運動が得意な人でなくても、写真を撮るのが楽しいという方もとても多いので、そういう発信もいいと思った次第です。

鈴木会長

ありがとうございます。検討委員会でも、四つの柱のうち、する、みる、ささえるは、やっている人はやっているけれど、全く行動変容しない人に対して、ひろがる、というところをどうするかという話がでたところです。他にありますか。

岡崎副会長

子供よりも保護者へのソーシャルサポートを強化するといったことが、子供のアクティビティを高めるという意味では効果的だと言われており、後日、岡本委員にご相談させていただきたいと思っています。

アクティブライフスタイルを推進していくための、国の事業はどのようなものでしょうか。

事務局

国の事業は、毎年度申請して、その取り組み内容が評価されたならば、最大 3 年間の補助が受けられるというもので、その地域で自立的な取り組みに向けた枠組みづくりのための事業として位置付けられています。昨年度のフェスタでは、親子の方が来るのであれば、協賛させて欲しいという話がありました。この 3 年の間できるだけ多くの人が集まる仕掛けづくり

をして、そこに可能な限り企業の参画を促して協賛をもらい、国の事業が終わったとしても、我々が所管しているスポーツ施設の自主事業や地域の取り組みとも連動していくような運用ができればよいと思っています。

鈴木会長

子供たちが少なくなってきた部活動の継続に不安が出ていると聞いています。中学校の現場の先生にぜひお話を伺いたいと思いますが、洞口委員いかがでしょうか。

洞口委員

少子化の波は大きく、子供たちがたくさんいた頃の部活動と今の部活動は、本当にかげ離れていています。今、話題になっている地域スポーツクラブも、日本中体連から全国大会にも出られるというお話があり、市の中学校総合体育大会にも出てきていますが、その国の施策に対して、今年度は、ちょっとハードルをつけさせていただいています。それでも例えば、陸上部がないけれど陸上を頑張りたいと言っている地域クラブの子供たちや、柔道を頑張っているけれど自分の中学校にない、そういう個人種目の子供たちは、救済処置というか、中総体に入れるような形にはなっています。ハードルをかけているために、地域クラブがすべて出られる状態ではないですが、「みんなで全国大会に行こう」といううたい文句で子供たちを集めるような、地域クラブもあります。宮城県ではハードルをちょっと高めにしていますが、他の東北六県では、心配しているようなことが起きています。例えば、地域クラブの方がいい子供たちを集めて仙台市の中総体に出るのであれば、中学校の部活動で求めてきた、する、みる、ささえるに重きを置いてやってきたところが、勝利至上主義的な形となっている問題も出てきています。県教委、中体連、スポーツ協会の方々と話し合いをしながら決めていかなければならない部分があります。サッカー部がないけれど、サッカーが大好きで、地域クラブで活動している子供たちを何とか救うためにはどういうハードルをかけていかないといけないのか、個人種目的なところは、今年度でも十分網羅されてきているのですが、団体種目は、そういう問題も出てくるので、協会や連盟の方々のご意見もいただきながらやっている現状です。

鈴木会長

中学校世代の現状の問題点がわかりました。吉田委員はいかがですか。

吉田委員

スポーツ少年団では、部活動の地域移行と言われて、非常に悩んでいます。県の方針もはっきりしてないし、予算化されてない状況で、スポーツ少年団の皆さんにお願いしますと言われても、普段、仕事をしている人が平日や土曜日にずっとついてやれる状況ではないです。それでなくても、小学校の子供をみるだけでも精一杯でやっています。今、スポーツ少年団は、勝利至上主義から脱却して遊び感覚で、という動きになっています。地区を越えて人を集めているチームがあると、地域の制限もつけながらや

っていかななくてはということもありますが、中学校の先生と協議しながら、どうしたら一番子供たちが活動しやすくなるのを考えていかななくてはと、思っていて、県にもいろいろな話をしています。

鈴木会長

広くスポーツを楽しむ環境をつくりましょうという考えもありますけど、個々の問題ではなく、地域で見えていくことも含めて考えていかないといけないのかなと感じました。他にいかがでしょうか。

弓田委員

アクティブライフスタイルの推進で様々な取り組みがされていることを聞いて、非常にいい動きだと思いました。そのターゲットが働く世代、特に女性を対象とした、ウォーキング、ランニング講座やイベント企画のお話がありましたが、事前にそういうニーズがあつての企画だったのかを伺います。

事務局

計画を作るときの市民アンケートで、20代から40代の働く世代の女性の運動実施率の割合がどうしても低いという結果がありました。その世代の女性をターゲットにして、どういう取り組みをしたら良いかを考える中で、事前のニーズ調査ではなく、まずはその身近にできるウォーキングからやってみようかということで始めたところですが、ウォーキング教室の情報を出しても、全く関心がない人に、楽しいですよ、健康にいいですよと言っても伝わらないことがわかりました。一方で、昨年度実施したフェスタでは、対象として30代40代の女性に入って欲しいと考えたところ、お子さんと一緒にその世代の女性の方が、多数来場していました。運動への関心の有無に限らず、子供を一つフックにして、その世代を巻き込むという取り組みに切り換え、教室をやりますよという形ではなく、子供と一緒にどうですかという発信をしています。具体例としては、ベガルタ仙台さんと連携して、ホームゲームの時に、スタジアム周辺のウォーキングを実施しました。チェックポイントを設けて、そこを回っていただくと、景品と試合観戦もできますという企画です。教育委員会を通じて、学校でチラシを配布してもらいまして、子供が行きたいと言ったら保護者も一緒に行くという形にしたところ、ご参加いただいた方からは、自分は全然サッカーに興味がないけれども、子供が行きたいというので来た。回ってみたら、いい運動のきっかけになったし、試合も見られてよかったというお声いただいたところでした。運動をやりたいという声だけじゃなくて、少し違うアプローチで、結果として体を動かしてみた、という仕掛けづくりをどのような形であれば、一番上手く行くかということ、今年度、来年度と探っていきたいと思います。

弓田委員

女性に限らず、様々な方の、いわゆる障壁になっているものが情報としてあれば、今後の取り組みの参考になりますし、今のお話でもいろんな、

ところとリンクさせた情報発信や取り組みをすることは非常に大事なのかなと思いました。例えば、保育園、子供の健診の場所でも、体を動かすことやレクリエーションから、楽しい、もっとやりたい、ということにつなげて、そこに、スポーツイベントの情報を提供できるようにしておくのも一つなのかなと思いました。ビジネスパーソンとしては、仙台には多くの企業があるので、企業や産業医さんと連携した取り組みをしていくと、多くの方に情報が行き届くのかなと感じました

事務局

ちょうど一年前、鈴木会長から、小学校低学年のお子さんがイベントに行きたいと思っても、未就学児を抱えている保護者の方はどうしたらいいのか、というお話をいただいたと思います。昨年実施したフェスタでは、託児サービスを試行的に取り組みました。参加された保護者の方からは、これまでもこういうイベントに子供が行きたいと言っても、小さい子がいるので参加できなかったけれど、託児があつて良かったというお話がありました。昨年の託児サービスは事前予約いただいて、手配するスタイルでしたが、当日その場でも使える形で運用できれば、より間口が広がるかなと思っております、今年度はそうした見直しを図りながら、ハードルとなるものを一つ一つ解決し、国の事業が終わった後の自立化というところにうまく繋げていければいいと思っております。

鈴木会長

ありがとうございます。そのほか特によろしければ報告資料 3 については以上で終わりたいと思っておりますがよろしいですか。

全委員

異議なし。

鈴木会長

ありがとうございます。以上をもちまして、本日の議事の一切を終了させて、いただきたいと思います。事務局に進行をお返しいたします。

事務局

以上をもちまして、本日の審議会を閉会いたします。長時間にわたりご審議を賜り、ありがとうございました。

(4) 閉 会